節目の2010年

常識革命　基礎講座

本紙は年頭にあたり、従来の常識を覆す新常識を見いだそうという「常識革命」を提唱している。だが、未来を切り開くには、歴史を把握することが必要だ。今年は「××周年」を迎える歴史的な出来事が多い。節目の年に、過去をじっくり見つめ、故きを温ねて新しきを創造する「温故創新」のきっかけにしたい。百五十周年にあたる咸臨丸の太平洋横断、五十周年を迎える日米安全保障条約の改定、そして四十年を経た大阪万博を振り返り、常識革命に向けた「基礎講座」とする。

温故創新　ことしで何周年？

西暦（周年）	主な出来事
710（1300）	平城京遷都
1180（830）	源頼朝挙兵
1560（450）	桶狭間の戦い
1590（420）	豊臣秀吉、天下統一
1600（410）	関ケ原の戦い
1610（400）	名古屋城築城
1760（250）	葛飾北斎生誕
1810（200）	ショパン生誕
1840（170）	アヘン戦争
1860（150）	咸臨丸渡米、桜田門外の変
1870（140）	平民に名字許可
1885（125）	初代伊藤博文内閣誕生
1890（120）	初の衆院選
1895（115）	下関条約
1905（105）	日本海海戦、ポーツマス条約
1910（100）	日韓併合、大逆事件、ナイチンゲール没、黒沢明生誕
1925（85）	治安維持法、普通選挙法施行
1930（80）	金解禁
1935（75）	芥川賞創設
1940（70）	日独伊軍事同盟締結、勝関（かちどき）橋完成
1945（65）	日本が太平洋戦争に敗戦
1950（60）	朝鮮戦争ぼっ発
1955（55）	自民党立党、55年体制始まる
1960（50）	日米安保条約改定、所得倍増計画発表
1965（45）	ベトナム戦争開始、日韓国交回復
1970（40）	日本初の万博開催、ビートルズ解散、三島由紀夫自決
1975（35）	ベトナム戦争終結
1980（30）	イラン・イラク戦争開始、衆参同日選、ジョン・レノン暗殺
1985（25）	日航機墜落事故、ゴルバチョフ・ソ連書記長就任
1990（20）	東西ドイツ統一
1995（15）	阪神大震災、地下鉄サリン事件
2000（10）	世田谷一家殺害事件
2005（5）	愛知万博、郵政選挙

「日本人単独」初の太平洋横断

咸臨丸の渡米から150年（1860年）

咸臨丸は、日本人単独で初めて米国に渡った船として教科書でも取り上げられている。だが、その裏には明治維新という「政権交代」にもてあそばれた一面もある。

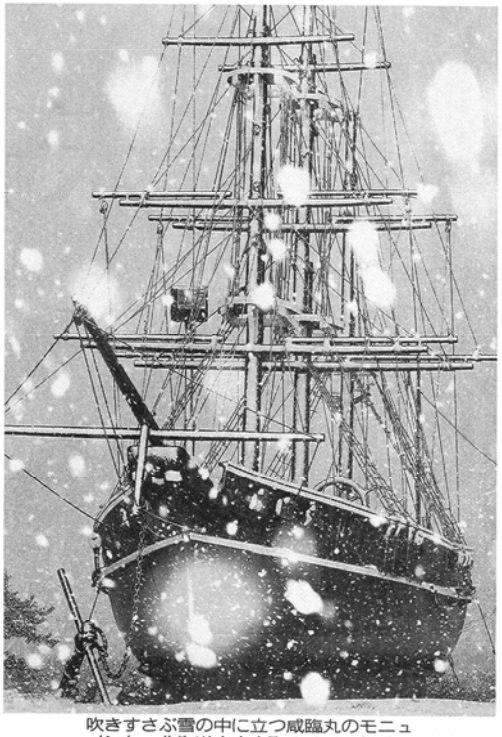
咸臨丸は一八五七年、江戸幕府の発注でオランダで建造された。長さ四八・八メートル、排水トン数六二〇トンの木造蒸気船だ。

咸臨丸は、六〇年二月、遣米使節団を乗せて太平洋を横断。艦長は幕府海軍の一期生、勝麟太郎（後の海舟）が務め、中浜（ジョン）万次郎が通訳、福沢諭吉も従者として乗り込んだ。航海は苦難の連続で、三十八日間の航海のうち晴天は七日間だけだった。

ただ「日本人単独の太平洋横断」には誇張もある。『咸臨丸栄光と悲劇の5000日』（合田一道著）などによると、勝は出航当初の大しけで寝込み、同船していた米国士官の助けで何とか乗り切ったという。

「国際人」生み近代化貢献

それでも到着先のサンフランシスコでは、歓迎を受けた。帰路には、ハワイに立ち寄って国王カメハメハ四世に謁見、約四カ月後に帰国した。この快挙で勝は、幕府の重鎮として初めて米国を訪問した日本の軍艦として盛大な歓迎を受けた。福沢も渡米をきっかけに啓蒙思想家に成長。それぞれが「国際人」の経験を生かし、近代日本の建設に貢献していく。



吹きすさぶ雪の中に立つ咸臨丸のモニュメント＝北海道木古内町のサラキ岬で

■悲運の晩年

ただ咸臨丸自体は次第に表舞台から消えていく。明治維新では海軍副総裁の榎本武揚に従って新政府軍と戦うが拿捕されて北海道開拓の運搬船となる。そして七一年十一月函館から小樽へ向かう途中、暗礁に乗り上げて沈没。十四年の一生を終える。

一九九四年に結成された「咸臨丸子孫の会」は、子孫や関係者が資料収集などを通してその足跡をたどっている。メンバーは二百人超。小林賢吾会長（七二）は「知れば知るほど先祖たちはすごかったと思う。当時の意気込みでやれば、今の日本も苦難を乗り越えられる」と話す。会は今年九月、神奈川県横須賀市の在日米軍基地内で「遣米使節百五十周年」記念行事を開き、偉業をたたえる計画だ。

■「陰の主役」

咸臨丸の陰に隠れた「主役」を再評価しようという動きもある。実は遣米使節の代表、新見豊前守正興は米国から小樽へ向かう途中、暗礁に乗り上げて沈没。十四年の一生を終える。

一九九四年に結成された「咸臨丸子孫の会」は、子孫や関係者が資料収集などを通してその足跡をたどっている。メンバーは二百人超。小林賢吾会長（七二）は「知れば知るほど先祖たちはすごかったと思う。当時の意気込みでやれば、今の日本も苦難を乗り越えられる」と話す。会は今年九月、神奈川県横須賀市の在日米軍基地内で「遣米使節百五十周年」記念行事を開き、偉業をたたえる計画だ。

新見豊前守正興は米国船に乗り込み、咸臨丸は随伴船という「脇役」にすぎなかった。新見一行に支障があった場合、咸臨丸の乗員らが代わりを務めるはずだった。実際は新見一行も無事訪米し、役目を終えた後は大西洋経由で世界一周したが、この事実はあまり知られていない。

新見に同行した小栗上野介（忠順）は、近代化に貢献したとして司馬遼太郎が「明治の父」と評した人物だ。小栗が晩年住んだ東善寺（群馬県高崎市）の村上泰賢住職（六九）は「明治政府は前政権のことを褒めたくなかったのだろう。咸臨丸だけが国威発揚に利用され、小栗らの存在は隠されてしまった」と話す。このため地元では今年十二月に小栗らの業績を紹介する企画展示や記念講演を予定している。

沖合に咸臨丸が沈む北海道木古内町サラキ岬。二〇〇四年、地元町民が「咸臨丸とサラキ岬に夢みる会」を設立。船が造られたオランダの国花・チューリップを五万球以上植えたほか、本物を模した約五分の一のモニュメントを設置した。

「夢みる会」の多田賢淳副会長（五九）は「沈没から百四十年の来年、咸臨丸ゆかりの地の関係者を集めたサミットを開きたい」と話す。時代を切り開いた船は、今も多くの人を魅了している。